

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後クラブともだち				公表日	2025年 3月 13日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	・長期休暇においては利用人数が多くなる傾向があり、日頃から部屋の目的を決めて分散するように検討している。 ・利用希望が長期休みになると増え、夏場だと熱中症、冬場だと寒さのこともあり、どうしても室内になる。隣施設も活動で活用している。	・子どもたちが大きくなり、人数は定員を守っているが、スペースが狭いように感じる。 ・部屋の使い方の工夫をしているものの、静かなスペースの確保や、休息スペースの確保が難しい。またそういったスペースを確保すると、運動したい児童の活動スペースがなくなるという課題がある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・法令順守している。	・日によってはできていないが、有事の際に動ける人が少ないように思う。 ・利用人数が増えており、職員の人数が足りないと感じる場面がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・出来る限り、こどもにわかりやすいように構造化している。合理的配慮も随時、子どもや家族の意見を取り入れながら配慮している。	・おもちゃの配置等改善できる点はあると感じる。 ・まだ構造化を進める余地があるように思える。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・環境には配慮して支援を行っている。ゆったりできるよう、ソファやクッションも設置している。また、部屋ごとに使用目的も考えて活動している。	・場所に限りがあるため活動に合わせられているか難しい。清潔さは努めているが、長年の蓄積による老朽化も見られる。 ・壁紙が破れていたり、子どもの身長に見合わない手洗い場。上靴をはかないがトイレにそのまま入るなどができてしまう。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			不十分ではあるが、時間によっては使用できるようになっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・ヒヤリ・ハット報告やミーティングなどで随時、計画・実施・評価をしている。 ・方針をたてて、総括を行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・優先順位をつけて業務改善につなげている。 ・保護者向け評価表だけでなく、保護者会や送り迎えの時に意見を聞いている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・随時行うミーティングを活用してつなげている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・第三者機関を決めるよう進める。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・職員のキャリアに応じて研修に参加している。法人内においても研修を開催している。 ・キャリアデザインなどはできていないかもしれないが、一定研修の機会は与えられている。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・支援プログラムは公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・システムを活用して円滑に作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・支援計画検討会議を一人ひとり実施している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・職員、共有認識のもと取り組んでいる。	・共有はされているが、スタッフへの伝達共有が難しく、計画に沿っているか判断し兼ねる場合もある。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・正規職員で毎月検討をしている。児童の変化は日々正規職員で共有している。	・アセスメントの技術を高めていけたらよい。 ・ツールは用いていないが、標準化された様式を使用している。日々の行動観察は、児童の人数が多かったり、長期休暇のみの利用児童などは日々の行動観察が難しい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・この1年変更を重ねてきた。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・事務局正規職員で毎月検討している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・運動や感覚など5領域にあうように活動も実施している。	・ある程度はできているが、一部固定化している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・今年度より取り組み、改善を進めている。	・出来ている児童とそうでない児童がいる。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			・具体的な支援の検討につながる記録のあり方が検討課題
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○		・2025度には年間の方針において明文化していく。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			・支援とは異なるが、利用状況が家庭の事情に左右されている家庭がある。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			・幼稚園、保育所等とはしてきていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			・児童支援と重なる（開催が午後から）ので、出られる時だけになります。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			・持っている保護者とそうでない保護者がいる。	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		・相談支援は行っているが、プログラムはない。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		○		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		○		・意向を確認する機会は設けているが、家族と子どもの意向が異なる場合に対応が及ばないことがある。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		○		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		○		・必要があれば受けられるように話を伝えている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		・会議の実施もしているが、イベントにも協力して参加している。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		○		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		○		・毎月発行し、重要な連絡事項はシステムを活用している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		○		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○		・合理的配慮も含め行っている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		・ボランティア募集 ・地域の学童を招き、運動会を実施
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。		○		・利用前に医療情報シートの記入をお願いしている。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		・把握はしているが、医師の指示書が出ているかは不明
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		○		・毎月会議で改善に向けた話し合いをしている。また年間でも確認している。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		○		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○			